

あかれんが vol.6

Yokohama Chuo Hospital AKARENGA

『新春のご挨拶』



皆様、明けましておめでとう御座います。

いよいよオリンピック・パラリンピックイヤーが始まりました。

スポーツの世界では明るいニュースが目白押しですが、政治・経済そして医療・福祉の世界では難題が山積みです。私達には高齢者社会の煽りを受けて介護・福祉と連携した綿密な医療が求められています。そのためには医療に関連する多職種間の連携が不可欠です。私達の病院では入院中の患者様について病棟で多職種カンファレンスを繰り返し行い、退院時にはご家族や連携機関を交えたカンファレンスにより地域完結型の医療サイクルを充実させています。また入院患者様だけでなく家庭医の先生方が治療されている患者様につきましても、ご依頼があれば特殊検査や栄養指導などで協力させていただきます。

今年も職員がワンチームで地域の医療機関と手を携えて市民の健康維持に尽力していきたいと思っています。

よろしくお願いします。



病院長 藤田 宜是



― 地域で取り組む糖尿病合併症の重症化予防 ―

当院では 3 つのサービスを提供することによって、地域住民の糖尿病合併症の重症化対策に取り組んでいます。

《糖尿病合併症セット検査》



【目 的】 糖尿病合併症の早期発見・早期治療

【内 容】 糖尿病合併症に関連する 12 項目の検査を 1 日で行います。

検査結果については、患者さんに直接説明するとともに、紹介元に書面にて報告します。異常が見つかった場合は当院の専門科に自動的に引き継がれ、追加検査や治療に進みます。糖尿病自体に対する治療は、引き続き地域の先生方をお願いする形になります。

【検査項目】 HbA1c、微量アルブミン尿、BUN/Cre/eGFR、ABI、心電図、心エコー、頸動脈エコー、眼科受診による眼底検査、歯科受診による歯周病の検査、血管外科による下肢の診察、総合診療科による問診、栄養課による栄養指導

【実 施 日】 火、金 1 日 4 人まで

【費 用】 約 4500 点

【依頼方法】 総合診療科宛の紹介状（氏名、年齢、性別、既往歴、内服薬、連絡先）と検査データを地域サービスセンターに FAX（FAX：045-681-9542）してください。

当院から直接患者様へ連絡し、検査日を決定します。

《糖尿病食体験入院》

【目 的】 実際に糖尿病食を食べることで、食べる量や各食材の分量、味付けを感覚的に学んでいただきます。

【内 容】 糖尿病食を 1 日 3 食提供する入院になります。併せて、糖尿病食に関する DVD を鑑賞してもらうことで糖尿病食に関する知識を学んでいただきます。さらに、入院中に持続血糖測定器を装着することで、自身の血糖変動と食事摂取の関係についての理解を深めていただきます。退院から一定期間経過した後に、フォローアップの栄養指導を外来において行い、家庭での実践状況について確認をします。



【実施日】 3日間コース(金)～(日)

5日間コース(水)～(日)

7日間コース(月)～(日) の3コースからお選びいただけます。

【費用】 1日あたり約3000点 (地域包括ケア病棟を利用した入院になります。)

【依頼方法】 総合診療科宛の紹介状(氏名、年齢、性別、既往歴、内服薬、連絡先)と検査データを地域サービスセンターにFAX (FAX: 045-681-9542) してください。

当院から直接患者さんに連絡し、入院日を決定します。

【注意事項】 当院入院期間中の内服薬は持ち込みになります。



《糖尿病教室》

【目的】 地域住民への糖尿病に関する知識の普及

【内容】 月に1回のペースで糖尿病や合併症に関する知識を約1時間の講義形式でお伝えしています。

講師は医師1名、コメディカルスタッフ1名になります。

対象は地域住民、糖尿病患者、地域の医療・介護職の方など誰でも参加可能です。

春と秋には講義形式ではなく、山下公園まで散歩を行っています。

【実施日時・実施場所】 毎月第1週(火) 15:00～16:00 当院4階 第1会議室

【申し込み】 不要

【今後のスケジュール】

2/4 (火) ①心臓血管障害～狭心症・心筋梗塞～

②上手な外食・中食の利用の仕方

3/3 (火) ①糖尿病と脳梗塞、認知症

②糖尿病と禁煙について～禁煙のススメ～



?



糖尿病重症化予防対策委員会

糖尿病重症化予防
対策委員会メンバーです
よろしくお願いします



当院の肝炎コーディネーターの活動について

肝炎医療コーディネーターは肝疾患に関して必要な知識を持つ専門員で、正しい知識の普及啓発、肝炎ウイルス検査の受検促進や、未治療のウイルスキャリアに対する適切な受診勧奨・保健指導、仕事をしながら治療を受ける患者の支援などをすることを役割としています。発足当初は、保健師、看護師、健康管理担当者らが中心でした。最近では多職種にわたり薬剤師、検査科、栄養科、リハビリ科、MSW、事務科も参加し、それぞれの役割をになって肝疾患患者のサポートをするようになりました。

当院は地域がら肝炎ウイルス感染者が多く、感染していても本人や担当医が気がつかないことがあるのが現状です。そこで院内の肝炎ウイルスの拾い上げを、検査科のコーディネーターがおこない、陽性者を医師事務のコーディネーターが肝臓専門医と連携をとり、担当医へ連絡し消化器科への受診を勧めています。結果、地道な活動により、治療すべき患者の拾い上げが可能になりました。看護師コーディネーターは、医師の説明のあとのサポートをしています。

今後もコーディネーターを増やし、一人でも多くの患者さんを見つけ、ベストな診断と治療ができるように、当院ならではの特徴をもった包括的な活動をしていきたいと思っています。

消化器内科部長 藤川 博敏



よろしく
おねがいします



肝炎コーディネーター試験に合格しました

形成外科の中園医師をご紹介します

横浜市立大学附属市民総合医療センター形成外科の中園美紗子と申します。昨年4月より毎週水曜日午前中に形成外科外来を担当しています。形成外科に馴染みのない方も多いかと思いますが、要するに体表形態の悩みを改善するための科です。

週1回、半日の勤務です所以对応できるものには限りがありますが、皮膚科の先生方から整容的に問題になりそうな部位の皮膚腫瘍の手術の依頼をいただいたり、脳外科の先生方から顔面外傷の紹介をいただいたりと、助けていただいたおかげで少しずつ症例も増えてきました。特に外来の看護師さん、事務さんには毎週お世話になっており、頭があがりません。

今後は手術の件数をもっと増やしていきたいと考えていますので、ぜひご紹介ください。よろしくお願いします。



第15回 JCHO 横浜中央病院地域医療交流会（報告）

テーマ『病床機能と地域医療』

令和元年11月18日（月）ホテルモントレ横浜にて、

第15回 JCHO 横浜中央病院地域医療交流会を開催いたしました。当日会場にはお忙しい中、定員数を上回る200名以上の地域医療関係者様にご参加いただき、大盛況となりましたこと、ご報告と共に深くお礼申し上げます。



新しく横中に加わった職員の方を紹介します



10月1日付採用

上瀧 悠介 医師
(かみだき ゆうすけ)

外科医師

2019年10月から1年半勤務させていただきます。
少しでも患者様の力になれるよう頑張ります。



10月1日付採用

高橋 英知 医師
(たかはし えいち)

呼吸器内科医師

昨年10月から呼吸器内科配属となった高橋英知と申します。
不慣れな点もあり、ご迷惑をおかけしますが、何卒よろしくお願い申し上げます。



10月1日付採用

松尾 幸果 医師
(まつお ゆきか)

循環器内科医師

10月に入職しました松尾幸果です。
何かお困りの際は循環器疾患でも力仕事でも何でも声をかけて下さい。
よろしくお願い致します！



1月1日付採用

澁谷 浩司 医師
(しぶや こうじ)

脳神経外科医師

日本で唯一ベンチプレス 160kg をあげる事ができる脳神経外科医です。1年以内に200kgに到達する予定です。

10月1日からの採用の脳神経外科医師の小澤祥成（おざわよしなり）医師は12月31日付けで退職されました。お世話になりました。

おわりに…

令和初めての正月を迎えて新たなスタート切りました。今年はオリンピックイヤーで、この横浜の地は会場候補でもありますので、さらに多くの外国人が訪れることでしょう。当院は以前から国際化に向けて多くの取り組みをしてまいりました。皆様のニーズに答えられるよう頑張っております。今年度もよろしくお願い申し上げます。

副院長兼地域ケアサービスセンター長 大岩功治



独立行政法人 地域医療機能推進機構
Japan Community Health care Organization

JCHO (ジェイコー)

横浜中央病院
Yokohama Chuo Hospital

〒231-8553 横浜市中区山下町268番地
TEL : 045-681-9534 (地域連携室直通)
FAX : 045-681-9542
E-mail : chiikirenkei@yokohama.jcho.go.jp
URL : <http://yokohama.jcho.jp>

